

来聴歓迎・入場無料

シンビオ社会研究会『エネルギー基本計画』講演会

協賛：京都大学大学院エネルギー科学研究科(依頼中)

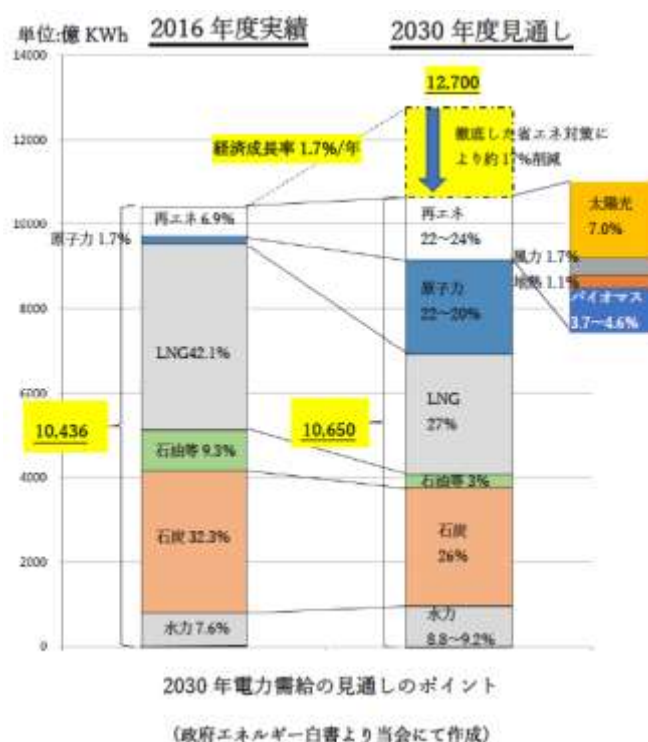
考えましょう。日本のエネルギー問題

毎日当たり前のように使っている電気。化石燃料の大量消費で温暖化が進み、地球の危機到来も間近といわれます。国は、2030年度の電力需給構造の見通しを最近の「エネルギー基本計画」で発表しています。

(右のグラフ参照)

計画ではそれぞれの発電方法の特性をバランスよく組み合わせ、資源枯渇やCO₂削減のため石炭・石油・LNGの化石燃料は減らす一方で、原子力と再生エネルギーでその減少分を補おうとしています。でも原発は稼働できない状況が続いています。再生エネルギーは本当に化石燃料の減った分を賄えるのでしょうか？

そこでお二人の講師に疑問に答えていただきます。将来の電気について皆さんと一緒に考えましょう。



日時：平成 31 年 1 月 28 日(月) 14:00~18:00(受付開始 13:45)

会場：京都大学時計台百周年記念館国際交流ホールⅢ

京都市左京区吉田本町 <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/clocktower/index.html>

交通：市バス「京大正門前」下車 東へ 京阪電車出町柳駅下車 東へ徒歩約 20 分

参加ご希望の方は氏名と所属を記載し、事務局あてに E メールでお申し込みください。

資料準備の都合上、申込期限は平成 31 年 1 月 16 日(水)までにしますが、1 月 25 日(金)まで受付けます。

申込先：シンビオ社会研究会 事務局宛

E-Mail：symbio-office@nike.eonet.ne.jp TEL&FAX：075-204-1559

～～～ プ ロ グ ラ ム ～～～

13:45～ 受付開始

14:00～14:10 開会の辞

～～第1部～～

14:10～15:10 講演『エネルギー基本計画における 2030 年度電力需給構造の見直し』

講師 秋元 圭吾 氏



これまで我が国のエネルギー基本計画の策定に関する政府審議会に有識者として参加した知見をもとに、どのような前提で計画が策定されてきたかをまず説明し、その後次のア～オの5つの疑問について解説する。

ア 省エネ対策とは何か イ 原子力比率の実現性と課題
ウ 再エネ比率の実現性と課題 エ 2030 年の電力比率と電力代の想定
オ 電力系統運用の安全・安定制御上の技術課題

15:10～16:00 総合討論

16:00～16:20 休憩

～～第2部～～

16:20～17:20 講演「人・組織・技術の相互作用の視点で見た原子力安全の海外動向と提言」

講師 久郷 明秀 氏



2011 年 3 月の東電福島事故は、原子力立国を標榜する過日の原子力委員会のもと、安全神話に安住し備えを怠った原子力に過重に期待する当時のエネルギー基本計画を挫折させた。福島事故を経て 8 年、原子力の規制基準も強化され、原子力発電の再稼働も始まった。今後はその運用において福島事故の教訓をもとに国民の信頼を回復することが求められる。原子力安全推進協会(JANSI)国際連携室長としての国際経験をもとに、我が国の変貌した原子力の状況と海外の動向を解説するとともに、改めて原子力安全のあり方と事業者の組織文化醸成について共考する機会としたい。

17:20～17:45 質疑応答

17:45～ 閉会の辞

講 師 紹 介

秋元 圭吾 氏

現在、公益財団法人地球環境産業技術研究機構主席研究員・システム研究グループリーダー。日本学術会議連携会員。専門分野はエネルギー・環境を対象とするシステム工学。

1999 年 横浜国立大学大学院工学研究科工学博士取得。財団法人地球環境産業技術研究機構に研究員として入所。2010～14 年 東京大学大学院総合文化研究科客員教授。IPCC 第 5 次および第 6 次評価報告書代表執筆者、総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会委員など政府の委員会委員も多数務める。

著書として、「低炭素エコノミー—温暖化対策目標と国民負担」など多数執筆。1997 年 IIASA より Peccei 賞等多数受賞。

久郷 明秀 氏

現在、原子力安全推進協会(JANSI)執行役員、原子力事業戦略本部国際連携室長。OECD/NEA WGHOF(人的・織要因検討ワーキンググループ)委員。

1978 年東京大学工学部卒業、関西電力(株)入社。原子力・火力本部原子力計画課長、大飯発電所次長、原子炉主任技術者(1・2 号炉)。東京支社次長・副支社長。

2006 年京都大学にて博士取得。

2010 年日本原子力研究開発機構に上席研究主席として出向。次いで電気事業連合会に新組織設立準備室長として出向。2013 年一般社団法人原子力安全推進協会に理事就任。理事退任後執行役員就任、現在に至る。2017 年日本信頼性学会優秀記事コラム賞(2016)受賞(実用発電用原子炉運転技術におけるリーダーシップ能力の向上をめざして)